



No. '21-1

(No.104)

Jan.2021

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1.	80日間世界一周航路（その2）	会員	菊池善次郎	2
2.	「当たり前」という奇跡	会長	稲葉尚子	7
3.	The Japan-Jamaica Musical Connection	ALT	Akierah Binns	8
4.	英語らしさ、について On the Town 3	会員	水谷 順	10
5.	本当の（？）初めての海外旅行	会員	相良恭子	13
6.	大塚国際美術館	会員	石田泰嗣	15
	〈事務局便り〉			17
	〈編集後記〉			17



80日間世界一周航路（その2）



会員 菊池善次郎

前回のNEWSLETTERで約40年前ビルマ船員と一緒に自動車専用船SPICA号に乗って世界一周した時の話を書きましたが、もう少し続けます。

1. 日付変更線で消滅した日はどうなった？

前回、西回り世界一周航路に就航していると日付変更線を通過する度にその日が1日消滅してしまう話を書きました。確かにSpica号乗船中の1982年、私の日記帳は363日分しかページを使っていません。普通の人の1年より2日短くなっています。1年が363日でした。



自動車専用船 MV SPICA

『では、もし同じ年、同じ日に生まれた人と比べると厳密に云うなら菊池さんの歳は2日分若いということですか？』と云う質問を受けたことがあります。私はこれ迄本船以外の船でも西回りに世界一周しています。逆に東回りは1回もやっていません。と云うことは、世界一周した日数分厳密には年をとってないと云うことなのか？と云う質問です。

そんな馬鹿なことがある訳がありません。

実は、云うまでもなく、からくりの種を明かせばこうなります。インド洋、大西洋、太平洋航海中少しづつ船内時計の1日を24時間ではなく30分とか1時間とか（船のスピードによる）時々延ばし1日が24時間30分とか25時間になる日を作っているのです。そうして毎日の正午頃の太陽の位置が正中（南方の最高高度）に近くなる様に調整しているのです。世界を一周し終わるまでに合計24時間延しているのです。

つまり、1年を時間数で云えば一般の人の1年が365日 x 24時間 = 8,760時間であるのと全く同

じ、私の1年も8,760時間(363日x24時間+24時間x2周。1982年の例)となっています。

2. 「働き方改革」など考えもしなかった時代

船員になりたての頃よく言われました。「タダで世界見物が出来ていいですねー」。

現実はそのように甘い世界ではありません。特に SPICA 号の様な自動車専用船の荷役(自動車の積み降ろし)は効率的でスピーディーで、港での停泊時間は極めて短く、上陸して見物どころではありません。航海れば航海ワッチ(当直)、停泊まれば荷役アテンドの連続です。そして欧州水域ではスタンバイ作業と云って船を港に入れ岸壁に着

けるまでの長い長い準備作業が加わり「寝る時間

もない」長時間労働を余儀なくされることとなります。もう少し説明します。日本の港における船の入出港の様には外洋から来て港が直ぐあって奥に見える岸壁に船がダイレクト/短時間に着くと云ったイメージとは違い、欧州の港は河川や運河やフィヨルド

を数時間^{さかのぼ}ってから、先ず船は一端ロック

(^{こうもん}閘門)というプールの様な水槽に入り、港と外と

の水位差の調整をしてからロックを出て、それから港に入り、初めて岸壁に向かって進み、着岸作業に入る、と云う誠に七面倒臭い作業がある港が殆んどです。この間乗組員は船橋のみならず船首、船尾、機関室と総出で夜昼関係なくこれら作業にアテンドすることになります。これを入出港のスタンバイ作業と云います。先船の作業が遅れれば本船は30分、1時間とその場で待ちます。強風や霧など天候が急変すればロックの中や河川の途中で暫く待機します。日本の港に比べれば長ーい、長ーい、入出港作業となります。

本船 SPICA 号の場合、欧州水域の寄港地は毎航7~8港。この水域で約2週間入港/出港/スタンバイ/航海/荷役を繰り返し過ごします。港と港の距離は近く、航海ワッチが終われば河川、ロック、入港のスタンバイ、港に着けば荷役ワッチと監督、出港すれば又ロック、河川のスタンバイ、そして航海ワッチと、そんなパターンの繰り返しです。タイミングを見て2時間とか3時間寝る。そん



な超過重労働の2週間となります。厳寒の季節は地獄の欧州水域です。揚げ荷、積み荷を全て完了しフランス沖で水先人を下ろし、英国南西端ランズエンド(Land' s End)岬を過ぎて船が大西洋に出ると1日8時間の航海ワッチ以外はドロの様に眠ったものです。今考えると、よく体がもったなと思う時があります。勿論、「働き方改革」など考えられない時代の話です。最も「働き方改革」をしていたら船は止まっていたでしょうが。

3. 外航船とドクター

昭和40年代(1965年代)の半ば頃まで外航船にはドクター(船医)が乗っていました。私が駆け出し船員の頃の話です。女性(おばさんと云っては失礼ですが)のドクターともご一緒したことがあります。しかしその後の乗組員合理化の一環として各航路から徐々にドクターが下船し今は客船や特殊な観測船を除きドクターは外航船には乗船していません。日本だけでなく世界中同じです。ドクターに替わって船舶衛生管理者(Medical Officer)が本来の職務にプラスされた形で任命され、乗組員の衛生管理を担当します。Medical Officerは医療関係の講習を受け資格を取らなければなりません。本船SPICA号にも勿論ドクターは乗っていませんでした。機関長(日本人)が本船の医療担当オフィサーでした。私も20歳代の頃資格を取って数隻の船で衛生管理者を担当したことがあります。病院での現場研修もやりました。注射を打つ実習もありました。

本船、欧州の冬の寒い日のことです。コーターマスター(操舵手)のマウンネイ(Maung Nay)が風邪を引いたらしく1日休ませて欲しいとのこと。熱が少しある。咳も出る。医療担当の機関長に云って風邪薬を飲ませ1日自室で静かにしている様に言う。その日の夕方、仕事が終わってから彼の部屋の様子を見に行くと大分元気になった模様。然しまだ少し咳が出るようなので持っていた自



前のヴィップヴェポラブを渡して「喉に塗ったらいい。楽になるよ。鼻が詰るなら鼻の中にも塗ったらいい」と云って帰って来ました。

ヴェポラブはよく小さな子供が、咳がでたり喉が痛い時に塗るといいと云われている「塗る風邪薬」です。私は昔から風邪気味で鼻が詰まったときや喉が痛いときは愛用していました。スースーして鼻の通りが良くなり息が楽になるからです。今も家庭の常備薬です。船に乗るときは常に持って行きました。

マウン ネイ君、ヴェポラブが功を奏したか翌日はすっかり元気になり船橋当直が出来る様になりました。「もう大丈夫です。チーフ（一等航海士の通称）には居室まで見舞いに来て頂いて有難う ございました。ヴェポラブはいい薬です。すぐ楽になりました」とお礼を言われること多々。本当 は機関長の与えた風邪薬が効いたのかもしれませんが。しかし、彼らビルマ人船員は上司に当る オフィサーが欧州系やインド人の場合、部下の居室まで来てもらうことなどあり得なかったと云ってました。それもうれしかったのでしょう。まあ、よかった良かった。とそんな話もありました。

4. 郷愁を誘う犬吠埼灯台

風もない、波もない、静かな海。本船の船首で切った海水が八の字になって広がり船橋の左右を白く流れる。

微かにサワサワと音がしてる。空は満天の星空。晴天暗夜の午前5時頃。船の前方やや右手方向の真っ暗い水平線のすぐ上の空が規則正しくポー、ポーと明るくなる。灯台の光芒です。

やがて一条の光となって「ピカッ」「ピカッ」と光りだす。15秒に1回光る白色閃光。房総半島北部、岬が最も太平洋に出っ張った尖端にある犬吠埼灯台の光りです。

アメリカ西岸から太平洋を横切って日本東岸に向う最短コースをとった場合、海図上の航跡は北に凸のカーブになります（地球は丸いため）。従って日本に近づいて一番最初に見えてくる灯台が犬吠埼灯台となることが多くあります。犬吠埼灯台の光が真っ暗な景色の中にはっきりと、予想通りの時間に見えてきた時は

何んとも云えない郷愁と安堵感に浸ります。「無事日本に帰って来たかー」と云う長い航海の後の安堵の思いです。『お帰りなさい。お疲れさま』。灯台の光がそう云っている様です。「やっぱり日本はいいなあ」と云う日本の船員だけが浸る郷愁かも知れません。

予想通りの時間に犬吠埼灯台が見えてきたと云うことは太陽と星を観測して何日も太平洋を航



犬吠埼灯台 (PhotoAC 提供)



早朝の犬吠埼灯台 (イメージ)

海してきた本船のコースと船位が間違いなかったことの証明であり、その安堵感と幸せ感でもありました。

それから 40 年余り過ぎた今、GPS を始めとする近代的航海計器が導入され何処でも何時でも誰でも容易に船の位置が分かる時代となりました。便利になった反面、小さな喜び、満足感、幸せを感じる場面が減ったのではないかと思います。

5. 世の中狭い

本船にバハドール ナム(Bahadur Nam)と云う操舵手がいました。「バカ (ハ) ドール」と呼べば「イエス サー」とすっ飛んでくる従順で働き者でした。本船を下船後どこの船会社の船に乗っているのか全く知らないところでした。

10 年後の 1992 年。私は陸上勤務となり、本社の子会社を立ち上げ、60 隻ほどの船の船舶管理の仕事をしていました。フィリピン、インドネシア、クロアチアなどから外国人船員をリクルートしてくるのも大きな業務の一つでした。当時あまり他社はやらなかったミャンマー船員(旧ビルマ船員)を起用してみることにしました。ヤンゴン(当時首都)に出張し船員雇用局と契約、その後いよいよ採用試験(インタビュー)を開始しました。ミャンマーでは船員稼業は非常に魅力ある仕事、10 数名必要な船員に数百名が列を作って応募してくる状況で大変でした。

面接会場の真ん中のテ

ーブルに座って一人ひとりいろいろ質問し採否を決めます。

応募者の一人に面接会場に入るなり「ハロー、チーフ！」とニコニコしながら近づいて来る男がいました。「なれなれしい奴だな」と思いながらよくよく顔を見ると何と 10 年前 SPICA 号で操舵手をしていたバカ (ハ) ドールではありませんか。船員募集広告に私の名前を見つけ即座に応募したと云う。彼の仕事ぶりはよく知っていたし、勿論、採用試験も問題なし。彼を採用することにしました。今度は操舵手ではなくランク上げしボースン(甲板長)で採用しました。約 1 ヶ月後彼は大型コンテナ船に乗って行きました。

SPICA 号での付き合いをよく覚えていたと思うと同時にやはり世の中は狭いと思ったところです。

「当たり前」という奇跡

明けましておめでとうございます

毎年1月号の私の原稿はこの言葉で始まり、

前年の反省をしながら、これからの抱負などを書いて

いたのですが、今年は何と書いてよいやら、全く見通しがつきません。

コロナ禍でガイドをすることができないので、身近な伊東の話題で英語に親しんでもらおうと企画したミニ講演会も感染者が増加したため延期を余儀なくされ、英語サロンやいちごサロンも中止しています。今まで「当たり前」と思ってやってきたことが、本当はとても幸せなことだったと考え直しています。



会長 稲葉 尚子

そういえば、昔同じような思いを抱いたことがありました。私がドイツのフライブルクでピアノを教えたり、演奏したりしていた27~28歳の頃のことと思います。

イラン人の40歳位のクラリネット奏者から伴奏を頼まれた

ことがありました。彼は自信満々なのですが、

実際はそれほど上手くなく、何より困ったのは時間がルーズで練習時間にいつも遅れてきて、全く悪びれる様子もないのです。それが重なるうちに、私は段々苛立って彼をあまり真面目に扱わないようになっていきました。

ある時、彼が自宅での食事に招待してくれ、奥さんがイランの郷土料理をたくさん作ってもてなしてくれました。明るい奥さんで、美味しい食事を楽しくよばれているとき、ふと横を見ると、部屋の隅に一人の女性と二人の子供がまるで家具の一部になってしまったように全く存在感なく座っているのに気が付きました。私は挨拶しようと立ち上がろうとすると、奥さんがサッと止めて「気が付かないふりをしてくれればその方が彼らにはいいの。彼らはイランから歩いてここまで逃げてきたの。」と言うのです。



フライブルク

聞けば、イランの学校に兵士が来て子供たちにトランプのようなカードを見せ「このカードを知っているかい？」と楽しそうに質問し、「知ってるよ」と言った子供の家に後から兵士が来て、父親を連行してしまったそうなのです。カードは当時のイランでは禁止されているものなので、父親はもう戻ってこなくて、家族も危険を感じたので国外に逃げたというのです。

その時私は愕然とし、私たちが当たり前享受着いるものが、決して当たり前でない世界があるのだということをおもいらされたのでした。

今のコロナ禍の世界も「当たり前のこと」がそうでなくなってしまったところが、少し似ているかもしれない。でも失って初めて大切なことが見えてくるように、本質的に大事なものと削ってもいいものがはっきりしてきたような気がします。そして大事な事の本質を曲げないで、やり方を変えてなんとかするという方法も学びつつあるような気もします。

スペイン風邪にも終わりがあったようにコロナにもきっと終わりがあると思います。そのあと、ここで学んだものがプラスとなって生活に生かせるように、巣籠生活の中でもアンテナだけは伸ばして、好奇心は持ち続けて、工夫を凝らして生活したいと思います。

The Japan-Jamaica Musical Connection



ALT Akierah Binns

The quaint style of the bar was reminiscent of Jamaica's old school dancehall setting. It reminded me of the good old days when people would gather and vibe to prominent dancehall and reggae artistes; the likes of 'Lady Saw', 'Shabba Ranks' and 'King Yellowman'. It was all so familiar, with an effortless feeling of being home. I had to remind myself that this was Kyoto's famous 'Rub A Dub' club, and not Jamaica.

This experience caused me to once again marvel at the ability of Japanese people to adapt the best parts of a culture and create something uniquely Japanese, which simultaneously pays homage to the cultural origin. This is especially remarkable because in present day Jamaica, there is perhaps no place that one could walk into to see that 80s/90s dancehall setting, and experience it as if being taken back in time. This is what I felt at 'Rub a Dub'.

The term, 'Rub a Dub', actually refers to a genre of music that emerged from Jamaica's original music of Rock Steady. It can also refer to the style of dancing that has come to be associated with Jamaica's musical genres. The Urban Dictionary defines it as a "a dance style where the man and woman rub up very close together and grind their hips to the beat."

While staying in Kyoto, my friend and I had randomly stumbled on the club located in a nondescript basement. When we saw the sign, we immediately felt that there might be something to discover that might vibe with our culture since it also depicted a photo of a Rasta man and Jamaica's national motto, 'Out of Many, One People'. We were not disappointed!

This aspect of Japanese culture has managed to find value in what Jamaica sometimes takes for granted, it's rich musical heritage. Certainly, Jamaica's music has infiltrated Japan and helped to break down the barriers and cultural defences that we, as humans, sometimes put up. I continue to look forward to living these cultural experiences that cross borders.



3密を避けるため、2つのグループに分けて行いました

英語らしさ、について On the Town 3



会員 水谷 順

アメリカのクルマ社会

今回はアメリカの自動車事情をテーマにします。もちろんアメリカ合衆国は元祖クルマ社会。3億人が暮らす広大な国土で、車を持たない人はまず生活ができません。毎日自動車とともに暮らすことによって、それに関連する英語表現もいろいろです。今回はそのいくつかを紹介しましょう。

まずはクイズから

自動車の運転席には、必ず方向指示器、というのがありますね。右左折のときにはレバーを左右に倒して、ライトを点滅させ、曲がり終わると、レバーは自動的に元に戻り、点滅灯は消えます。この復元装置が故障すると、指示器のレバーが自動で元に戻らなくなります。

この現象が起きて、販売店に修理を依頼に行き、いろいろ英語で説明し、修理してくれ、と頼んだのですが、販売店の修理担当者は、



修理伝票に、たった3つ単語を書き込みました。さあ何だったでしょう。

X X X X X X X X X X X X.

答えは、Blinkers don't cancel. の三つの単語です。これですべていつくされています。Blinkers は方向指示器のこと。日本ではウインカーと言いますが、winkers はイギリスの言い方。アメリカではblinkers です。英語の表現は簡潔明瞭なものが多いです。

Garage の二つの意味

Garage、ガレージ、というと車庫、とってしまいます。もちろん車庫、という意味もあるのですが、アメリカ英語の Garage にはもう一つの意味があります。

My car is in garage now. とは、「僕のクルマは今車庫に入っている」というよりも「僕のクルマは修理

中」という意味で使われることが多いのです。Garage には修理工場、という意味があります。

Go off と Come off

これらも会話でよく使います。

“Your lights are on.” 「あなたのクルマ、ライトが点きっぱなしよ」

“They go off.” 「あれは勝手に消えるの」

“Okay.” 「そうなの」

というように、Go off は「ライトが消える」といったときに使います。

次の Come off は「外れる、取れる」という意味。ある時、高速道路でタイヤから異音がして「あ、パンクだ」と気づいた時にはもうハンドルがきかなくなりかけていました。何とか路側に寄せて、タイヤ交換したのですが、ズタズタになったタイヤの破片で車のボディは歪んでしまいました。ディーラーに修理依頼をした時の担当との会話です。

“Did your tire come off?” 「走っているとき、タイヤは外れてしまったのか」

“Yes, then I pulled to roadside, changed to my spare tire and drove back home.” 「そう、それで路側帯に停めてタイヤ交換して帰ってきた」

“Okay, bring your car here. I will take it to body shop.” 「オーケー、では車をこちらへもってきてください。板金屋に出しますから」

Pull the car は走っている車をどこかに停止させる、というニュアンス。Park は駐車場に「車庫入れ」する気に使う、といったイメージです。Body shop はクルマのボディを直すから板金塗装屋、です。

電光掲示板

アメリカも高速道路には、電光掲示板があって、いろいろな情報を流します。「車間とれ」は”do not tailgate.” Tailgate は、もともと荷馬車の最後部にある「あおり板」の意味ですが、これが動詞化して、今のあおり運転、つまり車間距離を取らずにぴったり追走する、という意味で使われます。「この先渋滞」は Congestion ahead または Traffic jam ahead が多いです。Observe heavy traffic. なんていうのもあります。「この先事故」の場合、軽い事故と大きな事故で表現が違うようです。軽いほうは Fender-bender, つまりフェンダーが曲がった程度の事故。大がかりな衝突事故は Collision と使い分けられているようです。

交通違反

日本語で正確には「道路交通法違反」ですが、

口語的には交通違反と言っていますね。英語でも、

口語的には” got ticketed” ,つまり違反切符を切られた、

といいます。正確には Traffic offense というようです。酔っ払い運転で捕まると、Drunk driving offense, スピード違反は Speeding offense. これで切符を切られると、Speeding ticket となるわけです。信号無視は、run the red light. さて、赤信号は red light ですが、青信号、の色は緑ですね。なので英語では Green light です。この Green light, 信号の「進め」のほかにも、いろいろ使い方があります。青信号は進んでよろしい、から派生したものです。

I put you on green light. と言ったら「君の言っていることに OK を出した」「よしよかった、やってみろ」という意味になります。米国で仕事の面接を受けた時、面接担当者に僕がある仕事上の理念を力説した途端、“Okay I send a green light on you to Human Resources.” という答えが返ってきました。

「よし、それなら君の採用決定を人事部に伝える」という意味です。こういう表現も知っておくと面白いです。

今回の最後はジョークで

最後に自動車用語、ではないかもしれませんが、関連して、僕がアメリカで見た「傑作」の宣伝コピーの一つ。ある洗車場の屋上に出ていた看板です。

We undo what birds do-do on you!

Undo は「元に戻す」という意味。Do-do はご存じ do を並べて強調しただけ、つまり、うちの洗車機なら、鳥が落としたもので汚れたあなたのクルマのボディを元通りきれいにしますよ、というコピーです。ついでに、鳥のフンは “bird droppings” です。

ではまた次回。



本当の（？）初めての海外旅行



会員 相良 恭子

以前「初めての海外旅行?!」で返還前の沖縄に行った事を書かせて頂きましたが、今回は40年ほど前の本当の初めての海外旅行の思い出です。国内でも飛行機に乗ったこともなかった頃クロネコヤマトで購入してきた南回りの乗り換え便のチケットを持って30+α時間掛けてイギリスに行きました。

途中、台湾から乗って来た、やはり初めての海外旅行の女の子と一緒に香港→バーレーンを経てヒースロー空港ではなくガトウィック空港という羽田みたいな空港につきました。トランジットのバーレーンでは初めて見る、頭にスカーフとリングを被った白い服の男の人達のいる空港のトイレに2人で恐る恐る行きました。

当時ヒッピーが片道切符で渡航してアルバイトで長期滞在するのが流行っていて、私は家族に日本人の女性がぼやぼや歩いているとお金や貴重品を盗られると言われて、ジーパンに黒いTシャツ、安物の腕時計、アクセサリ無しで格好だったので、イギリスの空港ではヒッピーの仲間と怪しまれ、入国手続きの時に、私の行く先の友人は独身か結婚しているのかなど聞かれました。友人からの手紙を持っていたのでそれを見せるとようやく通してくれました。何しろ30+α時間掛けて6日間位の滞在予定では怪しまれても仕方ありません。

イギリスでは中部のバーミンガムに行ったのですが、夏休みだったので、友人は娘を自転車に乗せて南部の弟の所に行っていました。2人の弟がいる実家に数日滞在させてもらいました。その家では、両親はそれぞれスコットランドとオーストラリアに行っており、家にいた上の弟は、ガールフレンド（後の奥さん）とギリシャ旅行から帰ったばかりでした。イギリスの夏休みの家庭ってこんなだと感心しました。

一番下の弟だけは大学受験でずっと家にいたようでしたが、翌日、絵に描いたような服装の郵便配達員が来て、受験した大学の不合格通知が届いたようでした。でもその弟はガッカリしていると思うのに、私を、街をぐるっと囲む丘に連れて行ってくれ、途中でスロットゲームをしたり、フィッシュアンドチップスを一緒に食べたりしました。彼の知っている日本は“YOKOHAMA TIRE”だけでした。滞在中、弟達とガールフレンド達が私の行きたがっていたシェイクスピアの生誕地ストラッドフォードに連れて行ってくれました。そこでは昼間はお酒を売ってはいけない時間がある事を知りました。

その日一緒に帰ろうと言ってくれたのですが、私は一人で B&B に泊まることにしました。翌日、夕方バーミンガムに戻ってくると、みんなで BAR に行くことになりました。私は、夕飯は食べて来ると言っていたのですが、食べそこない、そのまま BAR に行ってお酒を飲んだら大変なことになると思い、途中で夕飯を食べていないことを申し訳なさそうに言う「早く言えば家に食べるものがあったのに。」と TAKE OUT の中華料理店で食べ物を

買って BAR に持って行きました。イギリスでは BAR では食事は出さないことを初めて知りました。

私は『外国人』ということで、お店の OK をとって一人でパクパク食べました。考えたら車で行ったのに、みんなで飲んでいて、帰りは誰が運転したのでしょうか？家に帰る時 BAR にいた友人達がみんなゾロゾロ家について来ました。まだ地方では日本人は珍しかったようです。



友人宅のホームパーティーにて

滞在最後の日の前日、私がお礼に夕食をご馳走しようとしたら、イタリア料理が良いと言うので行ったのですが、ピザをナイフとフォークで食べ、イギリスの人にとってイタリア料理はピザなのかと思いました。最後の日の朝、上の弟に持ち歩くと危ないと思って預けておいた持参したお金の半分を返して貰いましたが、その時「私のお金返して！！」という笑いながら返してくれました。もう何と言ったのか覚えていませんが、私の英語がおかしかったのか？その後あとまで Kyoko のこの話はずっと笑い話だったそうです。

クレジットカードなど持ってない時代です。

その後、ようやく友人の滞在する南部のチチェスター（？）に行きました。バーミンガムからロンドンを経由して行くのですが、ロンドンまでの電車の中で、アイルランド紛争で負傷してロンドンの病院に行くという杖をついて歩いている若い兵士と向かい合わせの席になりました。他愛のないおしゃべりをしてロンドンに着くと、私が初めての海外旅行だと知り、杖をついて歩いているのに乗り換えホームまで案内してくれました。こんな良い人がどうして戦争するのだろうと思いました。

南部の弟宅（友人は兄弟姉妹が多いのです。）での滞在では、緯度の高いイギリスの夏は昼間のように明るい内にお風呂に入るのが不思議でした。8時か9時頃だったようでした。

イギリスの子供の詩

Why do we have to go to bed so early while it's still light outside in summer.?

Why do we have to get up and go to school so early while it's still dark outside in winter? を思い出しました。夜、どういう成り行きだったか子供が寝た後、友人と弟と一緒に無謀にも“資本主義と共産主義”について話しました。私は言葉が出なくて早めにベッドに入っただけなのに、わざわざ “It was not the argument. It was just a talking.” と心配してくれました。

その後ロンドンに戻って一人でミュージカル “エビータ” を観て帰りました。一人旅は危なっかしいけれど貴重な経験も出来ます。私の本当に（？）初めての海外旅行でした。

大塚国際美術館



会員 石田 泰嗣

四国、徳島県鳴門市にある「大塚国際美術館」へ家内に誘われて行くことになった。実は数年前に

家内の妹夫婦と一緒にいったことはあるのだが 何しろ広くて大きくてあまりよく覚えていない面があったのでもう一度見ておきたい気持ちがあった。 Go To トラベルを利用するので安く行けるのも参加の理由の一つである。 同行メンバーは伊東からは S さん、N さんが加わって 4 名で、これに向こうで大阪の妹夫婦が加わって合計 6 人である。 令和 2 年 9 月 30 日 11 時ごろの出発である。 車は 7 人乗りなので余裕は十分ある。 京都へ入る前に「石山寺」へ立ち寄る。 紫式部の「源氏物語」に縁のある寺である。 伊東高校卒の S さんが修学旅行で来たという。 60 年以上も前の話だ。 階段を上がって高台に上がると 琵琶湖の一部が見える。 今日の宿は「エクシブ八瀬」。

10 月 1 日：朝食を早めに摂って「高台寺」を見学。 何回か見ているお寺だが見るたびに感じ取るものが違う。 今日は裏の庭が印象に残った。 このあと四条の高島屋の近くで妹夫婦を拾う。 これで 6 人。 7 人乗りの車でちょうどよい人数である。 車は一路四国を目指す。 四国の手前に淡路島がある。 ここで降りて四国八十八カ寺巡りの一番札所「霊山寺」に立ち寄る。 さすがに一番寺だけあって参拝客は大勢です。 それと編み笠から杖、草鞋など参拝に必要なものが売られている。 私は交通案内のお札を購入して 鐘を突かせてもらった。 きょうの宿は「エクシブ鳴門」。

10 月 2 日：いよいよ「大塚国際美術館」[OTSUKA MUSEUM OF ART]へ。

開館は 1998 年（平成 10 年）3 月 21 日なので比較的新しい美術館です。 ここで展示されている作品はすべて「陶板名画」です。 一番大きな作品はパリのルーブル美術館にある「皇帝ナポレオン一世と皇后ジョゼフィーヌの戴冠」です。 原寸大（621X979cm）です。 すべての作品が原寸大で陶板に写し取られているのです。 ピカソの「ゲルニカ」も大作ですが 原寸大です。 ダヴィンチの「最後の晩餐」は修復前のと、修復後の両方が展示されています。 他にも ゴッホの数々のひまわりの作品やモネの「睡蓮」など 1000 点余りです。 私は美術作品が何年ものかわかりませんが陶板名画なら 1000 年以上ものではないかと思えます。 そういう意味でも、 もっとたくさんの作品を陶板に焼き付けて展示してもらいたいと思います。 小学生の団体が何組も来ていました。 とても良い勉強の機会だなと思いました。（私たちはこの後、鳴門の渦潮を橋の上から見て、神戸の宿に泊まり、3 日に妹夫婦とは宿で別れて、伊東のメンバー 4 人は比叡山延暦寺と三井寺を見て帰りました）

〈事務局たより〉

世間を騒がすコロナ禍、当会も残念ながら殆どの活動を自粛する状況です。12月に予定していた Paul Hoff 氏による英語講演会も延期となりました。只、その講演のお知らせに稲葉会長と私が出演した CVA テレビ局では変わりに、当 ISGG の歴史・活動を話させていただく機会を得ました。長い歴史のある当会ですので又、近い将来こういった事を企画したいと思います。

又、今回は伊東在住の ALT の近況をお知らせしたいと思います。

Akierah はクリスマス休暇を母国のジャマイカで過ごし、1月8日帰国、2週間の自粛期間を終え職務復帰です。Jefferey は伊東国際交流協会の依頼で伊東市の英語広報を引き受けて頑張っています。私もいるかチャンネルで観ましたがプロの TV アナウンサーではないかと思うほど上手でした。Holly は残念ながら休暇中に予定していた旅行がコロナ禍の為に行けなかったみたいですが、得意のケーキ作りに勤しんだのではないのでしょうか。みんな1月の英語サロンがキャンセルになり残念がっていました。2月はぜひ開催できればうれしいですね。

〈編集後記〉

コロナ禍中、多数原稿をお寄せくださりお礼申しあげます。

まずは菊池さん、2回に亘る長編「80日間世界一周航海」興味深く拝読しました。Jules Verne の小説の方は最後に時差に気づいて、メデタシ、メデタシとなるのですが、菊池さんお話は全てが実体験に基づくものですから、臨場感漂います。

稲葉会長、仰る通り全くいろいろな活動が中止になってしまいましたね。

「当たり前」を取り戻せるようにコロナの一日も早い収束を願うものです。

Akierah 先生、京都に在るという 'Rub A Dub' 知りませんでした。

私がおった50年前の京都には、そないなところは、あらしまへんでした。

'Rub a Dub' や 'Rasta' も初めて知りました。京都にジャマイカの文化を伝えるところが在るのですね。目からうろこでした。(私は白内障の手術を去年したばかりですが)。

水谷さん、楽しくためになる話題に感謝。読んでいだけで語彙が自然と増えるという優れものです。実は1970年、初めて訪れたLAでBody ShopやBody Workの看板に出くわした無知な私は、あらゆる想像を巡らせた覚えがあります。いや～、思い出すとお恥かしい限り。

相良さん、初めての海外旅行、しかも南回りで英国へ。貴重な青春の一ページをご紹介くださいました。ひとつひとつが、印象的でした。

石田さんの「大塚国際美術館」。新聞やテレビで読んだり、見たりした覚えはありますが、実際に行かれた方の話を伺うと身近に感じられ、行ってみたいくなります。

それでは、皆様くれぐれもコロナにお気を付けてお過ごしください。

編集員一同、次号へのご寄稿を心よりお待ちしております。

TK記 (tea & cake)

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 414-0023 伊東市渚町 2-48

伊東観光案内 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄